

茨城県消費者物価指数

消費統計係

消費者物価指数という言葉も私達の耳にはもうおなじみになってきました。朝晩のテレビ又ラジオのニュースに取上げられ、また新聞や雑誌にも棒グラフや折れ線グラフの見られる昨今です。

この茨城県消費者物価指数は県内5市（水戸市、日立市、土浦市、下館市、古河市）の消費者世帯（農林漁家世帯および単身世帯を除く。）が購入する各種の商品とサービスの価格を総合した物価の変動を時系列的に測定するものであります。すなわち、消費者物価指数は、家計の消費構造を一定のものに固定し、これに要する費用が物価の変動によってどう変わるかを指数値で示したものです。

基準時は昭和45年1年間とし、ウェイトの算定期間もこれと同じです。

指数に採用する品目については、消費者が購入する多数の商品およびサービス全体の物価の変動を代表できるように、家計支出上重要度が高いこと、価格変動のうへで代表性があること、さらに、銘柄を規定して長期間価格の調査ができることなどを考慮し428品目を選定しました。

指数に採用している品目の価格は、小売物価統計調査（水戸市・古河市）、茨城県消費者物価調査（日立市・土浦市・下館市）によって調査された小売価格です。両調査の概要は次のとおりです。

(1) 価格報告者

市町村別に設けられた調査地区の中から実際に調査を行なう小売店舗、サービス事業所、借家などを調査対象としています。商品およびサービス関係の品目の価格報告者は各調査地区内で、その品目の販売量または経営規模の大きい順に所定数選定した小売店舗やサービス事業所の事業主です。また、民営家賃については、家賃調査区内に居住するすべての借家・借問世帯主・世帯主です。

このように選定された価格報告者の数は、5市で約859店舗（事業所）および約762世帯となっています。

(2) 調査価格

調査する価格は、調査日に調査店舗で実際に販売している平常の小売価格・サービス料金で、大部分の品目は調査員の实地調査で収集されます。

また、一時的な廉売価格、災害等に起因する異常価格、月賦販売、多量販売による特殊価格および中古品の価格は調査しておりません。このようにして毎月収集する価格数は5市で約5,660価格および家賃・間代の価格数が約250となっています。

(3) 調査銘柄

指数品目として調査する品目については、一定の銘柄（基本銘柄）、数量単位等を指定して毎月同じ品目のものを調査していますが、指定した銘柄の出回りが少なく、代表性がなくなった場合は、その銘柄を、代表性のある他の銘柄に変更（銘柄変更）しています。この場合同一品質の価格変化率をは握するため、変更時点における新旧両銘柄の価格を同時に調査しています。

(4) 調査期日

調査期日は、毎月12日を含む週の水曜日、木曜日または金曜日のいずれか1日をとります。たにし、価格の月別変動の激しい季節商品（生鮮魚介、野菜、果物）のうち42品目については中旬のほかに上旬（5日を含む週の水・木・金のうちいずれか1日）、下旬（22日を含む週の水・木・金のうちいずれか1日）の価格です。また、これらの季節商品についてはいずれも調査日を含む前3日間の中値を調査しています。

指数計算に用いる基準時価格は、市別の昭和45年1月～12月の価格の単純算術平均値ですが、季節商品は、月別ウェイトによる加重算術平均値です。

ウェイトは、水戸市、古河市については、家計調査の資料を用い、日立市、土浦市、下館市については昭和44年全国消費実態調査の結果を加工し、45年平均の品目別支出金額を推計して算出しました。

なお、季節商品については、月別支出金額により月々異なるウェイトを算出しました。

5市平均指数は、各市のウェイトに、それぞれ家計調査適格世帯数の市別割合（水戸市32、日立市4、土浦市16、古河市10、下館市8）を乗じたものを最終的なウェイトとして、5市指数を加重平均して算出しました。

市別の指数算式は、基準時加重相対法算式（ラスパイレズ型）を用いました。

以上が茨城県消費者物価指数の概要であります。

昭和47年の茨城県消費者物価指数の結果は次のとおりです。

1 概況

昭和45年を100とした昭和47年平均の茨城県消費者物価指数は、総合で111.2となり、46年平均に比べて43%の上昇を示しています。この上昇率は物価指数の作成を始めて以来、最も低い上昇率となっています。ちなみに43年が5.9%、44年が6.4%、45年が7.8%、46年が6.6%となっています。また、47年の全国平均の上昇率4.5%よりも下回っております。

47年の消費者物価の上昇は、衣料、身の回り品などの被服が7.6%、保健医療・文房具・教育などの雑費が5.3%、設備修繕・水道料・家賃地代などの住居が5.2%とそれぞれ高い上昇を示したのが主因とみられます。この外、食料・光熱にも上昇がみられます。

季節商品（生鮮魚介、野菜、果物）を除いた総合指数は112.3となり前年平均の106.6に比べて5.3%の上昇を来しています。この上昇率についても総合指数と同じく今までの上昇率のうちでは最も低いものであります。

消費者物価指数 (昭和47年平均)

昭和45年=100

	五市平均	水戸市	日立市	土浦市	下館市	古河市	全国
総合指数	111.2	110.7	111.3	111.6	111.5	111.4	110.9
対前年上昇率 (%)	4.3	3.6	3.7	7.1	5.1	3.9	4.5
食料	109.0	108.7	108.2	110.8	108.9	110.2	110.1
	2.5	1.6	2.0	6.0	3.0	2.1	3.9
住居	112.6	111.5	114.2	107.7	114.2	114.9	109.1
	5.2	4.8	5.4	4.6	7.3	6.3	4.1
光熱	105.7	105.5	104.3	107.1	107.8	107.1	105.3
	0.6	1.2	0.4	1.0	0.3	1.0	1.5
衣服	117.7	116.8	120.4	113.7	118.8	107.5	115.0
	7.6	7.0	7.3	8.8	8.1	7.9	5.5
雑費	111.4	110.9	111.8	112.9	112.0	109.9	111.7
	5.3	4.4	4.8	9.2	6.8	4.0	5.5
季節商品を除く総合	112.3	111.8	112.8	112.4	112.6	112.2	111.6
	5.3	4.7	4.9	7.6	6.2	4.8	4.9

2 年間の動き

47年1年間の動きをみると、昨年12月から47年1月には値動がなく指数は横這いを示しました。しかし、2、3月にかけては診察料の改定・郵便料金、電報料などの公共料金等の値上がりがあり、4月には授業料・野菜の値上がりが見られ指数は3ヶ月続けて0.4%、1.2%、0.7%とそれぞれの上昇を示しました。5月には季節商品の主鮮魚介・果物は値下がりが見られ、続いて6月には野菜も値下がりしたため指数はそれぞれ0.3%の下落を示しました。7月に入っても野菜は引き続いて値下がりを示したが、生鮮魚介が反騰したため指数は0.3%の上昇をみせ、8・9月には野菜の反騰、果物の大幅な値上がりなど季節商品を中心に指数はそれぞれ0.5%、0.6%と上昇

を示した。10月に入ると果物は値下がりを示しましたが主食（米）の値上りのために指数は0.4%の上昇を示し、続いて11月は果物の続いて値下がり、また野菜も値下がりしたため指数は0.4%の下落となりました。次いで12月は野菜の反騰、生鮮魚介の値上がりなどにより指数は0.4%の上昇を示したが、果物は引続いて値下がりし、先々月から3カ月間下落をみせました。

3 費目別の動き

食料指数は109.0となり前年に比べてみると2.5%の上昇を示しました。これは乾物が9.8%、塩干魚介・加工食品が9.4%、外食が9.1%と大きな上昇を示したのが主因とみられます。この外には肉類の5.9%、飲料の5.5%などが目立っております。しかし、野菜（14.3%）、果物（5.5%）には下落がみられました。

住居指数は112.6となり前年に比べてみると5.2%の上昇を示しました。これは設備修繕が9.6%と大きな伸びを示し、さらに水道料8.1%、家賃地代8.0%の上昇が加わったためであります。

光熱指数は105.7と前年に比べてみると0.6%の上昇を示しています。これは、その他の光熱が1.3%の上昇を示したためであります。反面電気ガス代は若干の下落を示しました。

被服指数は117.7となり前年に比べ7.6%の高い上昇を示しました。これは、身の回り品・衣料がともに7.6%・7.5%の大きな上昇を示したためです。

雑費指数は111.4となり前年に比べてみると5.3%の上昇を示しました。これは保健医療が7.5%、文房具が8.2%、教育が7.1%と大きな上昇を示したのが主因とみられます。この外、教養娯楽・交通・通信・美容衛生などにも上昇がみられました。

茨城県消費者物価指数（五市平均）

昭和45年=100

